

～発達障害と依存問題の 関係の正しい理解～

浦和まはろ相談室 代表／認定NPO法人ワンデーポート 家族個別相談担当 精神保健福祉士 高澤 和彦

有識者によるリレー形式の短期連載コラム「パチンコ・パチスロへののめり込みと発達障害の関係」の2回目は、浦和まはろ相談室代表でワンデーポート家族個別相談担当を務めている精神保健福祉士の高澤和彦氏から、事例のご寄稿をいただきましたので紹介いたします。

20代男性Aさんの借金、パチスロと買い物依存症をどうしたらよいか？という両親からの相談

両親の理解は依存症でしたが、Aさんの生育歴・生活歴を聴くと発達障害(特性)を背景とした職場での不適応が依存問題に関係していることが推測できました。両親と顔を合わせると度々借金について責められ、職場の不満を話しても借金を返すために仕事は辞めてはいけないといわれていたAさん。両親を避け、帰宅すると自室に直行する生活が続いており、関係が悪化している両親の勧めで相談に引き出すことは難しいと考え、Aさん宅の近くに出張の折

に訪問を設定しました。もちろん不意打ちではなく、訪問で話を聴きたいという私の意向を父親から伝言してもらいました。

意外にもAさんは私を快く迎えてくれました。コンビニのバイトから正社員になったのですが、天候など状況に応じた柔軟な発注ができない、バイトへの気配り・目配りができないと叱責の日々。つらさを紛らわすため通販で好きなフィギュアの購入を繰り返しているうちに借金が始まり、それを両親に責められるので帰宅するのが嫌になり、以前に友だちに連れて行ってもらったパチスロで時間をつぶすようになって、通販とパチスロへのダブルの逃避になったことで借金が増えたことがわかりました。

支援の考え方

発達障害(特性)のある人の支援は、必ずしも診断がなくてもその人が生活上苦労するところに応じて、無理のない環境に調整すること(例:適性のある仕事に変える)や必要な生活

支援(例:金銭管理のサポート)を入れることで対応できることも多いのですが、Aさんの場合、自分でもネットで発達障害についても調べ、発達障害の評価には適さない医療機関に予約しようとしていたこと、両親に依存症の認識を変えてもらう必要があったことから、連携している発達障害に理解のある精神科の受診を勧めました。自閉スペクトラム症(ASD)の診断でした。

発達障害(特性)のある方の依存問題は、①職場、学校等で不適応が起きやすく、逃避としての依存問題が生じやすい、②見通しを持って生活する能力(特に金銭管理能力)が弱いことがある、の2点に注意してアセスメントする必要があります。Aさんの困難は①が主で、自分の弱点もよく理解していました。実は、Aさんのように発達特性が薄い(軽い)人ほど「経験を積みあげることができる」と誤解されやすく、負荷がかかり続けて問題をこじらせていることがあります。

Aさんへの対応

何度か相談しながら「合わない仕事は辞めていいと思う。失業保険も出るのでもっと合う仕事を探そう。借金は生活が落ち着いてから対処できる」という私の考えを伝えました。オーナーと父親に引き留められ紆余曲折はありましたが、なんとか退職にこぎ着けました。その後、通販会社の倉庫で契約社員として働き始めました。決まったことを着実にこなせばよいことがAさんにフィットしました。生活が安定し、依存問題には特にアプローチしていませんが、ホールに逃げ込む必要もなくなりました。時々レア物のフィギュアを買ったり、映画に行ったりして余暇を楽しんでいます。借金もゆつくり返済しています。

合わないこと、キツすぎることもが続くと依存問題につながりやすくなるのは、発達障害に限ったことではありません。誰しも得意・不得意があり、現代の厳しい社会情勢の中では小さな苦手が容易に不適応に発展します。仕事や対人関係でつ

まづいている人に、安易に「発達障害」というレッテルを貼るひとりよがりの理解が必要です。発達特性の有無にかかわらず、パチンコ・パチスロを楽しんでいる方たちの中でも、身を置いている環境とのミスマッチから依存問題を呈する人もいます。よう、事業者の気配り・目配りをお願いします。



高澤 和彦
(たかさわ かずひこ)

浦和まはる相談室代表、精神保健福祉士。埼玉県職員として県立精神医療センター等の勤務を経て2007年開業。ワンダーボート家族相談担当、リハビリサポート・ネットワーク対面相談担当。福祉・保健等の支援に携わる立場と娯楽を提供する事業に従事する立場との協働を目指し、依存の問題の支援に携わる人たちの勉強会を続ける他、東京・埼玉・千葉6ヶ所の精神保健福祉センターで助言者等も務めている。ランニング、農産物買い出し、坂道系アイドルが好き。



2021年度 助成事業
応募状況

2020年11月9日から12月11日までの約1か月間、2021年度助成事業の募集を行いました。一般助成は「パチンコ・パチスロ依存問題の予防と解決に取り組む事業・研究への支援」「子どもへの健全育成支援」、「昨今の社会情勢により生活に困難を抱えている若い世代(親子を含む)への支援」「障がいを持つ子どもたちや孤立する高齢者に対する支援」「日本国内各地の災害被災者の支援や被災地復興のための支援」の5分野です。特別助成は「パチンコ・パチスロ依存問題の予防と解決に取り組む研究機関への、研究成果周知に対する支援」です。今年も全国の社会福祉協議会等に、募集要項をホームページ等への掲載を依頼し周知を行った結果、申請件数は前年度と同数の92件でした。

2021年度助成事業は1月27日の「第4回常任幹事会」で審査を行い、3月10日の理事会で正式決定します。

第16回社会貢献大賞の
募集について

全日遊連(都府県方面組合、支部組合、組合員ホール)が、積極的に取り組んでいる社会貢献活動に対し毎年実施している「社会貢献大賞」の募集が始まりました。対象事業は2020年1月から12月までの1年間、「都府県方面組合」「支部組合」「組合員ホール」の各部門において実施した社会貢献活動です。

応募期間は2021年1月12日から2月26日までです。コロナ禍で社会貢献活動に大きな影響があったことと思いますが積極的な応募を期待しています。

第16回社会貢献大賞は、3月24日の「第5回常任幹事会」で第1次審査を行い、4月

9日の社会貢献活動審査委員会(社会貢献大賞1件、各部門の最優秀賞1件)優秀賞(3件以内)を内定し、4月15日開催の理事会で正式決定します。なお、今回より最終審査ノミネート賞は廃止しました。

表彰されました社会貢献活動は、「POSSC」2020社会貢献活動年報報告書で紹介のほか、7月2日開催予定の「第16回社会貢献大賞表彰式・助成金贈呈式」で皆様に報告する予定です。

「日刊ゲンダイ」「日工組通信」
で当機構の社会貢献活動を
を紹介

日本遊技機工業組合(日工組)は、「日刊ゲンダイ」紙上で遊技業界が実施している活動や取り組みについて紹介していますが、10月30日号と11月27日号で当機構の助成による社会貢献活動が掲載されました。

11月27日号では、「子供たちのためにできること」という大きな見出しで2019年度助成事業の「子どもの命を守り育てる地域・ベイビースター」による社会包摂の仕組み作り「事業や子どもたちへ本物の音楽を届ける訪問コンサート2019」事業など、子どもの健やかな成長を願う事業を取り上げています。今回の掲載により、当機構や遊技業界が行っている社会貢献活動が多くなっていることが、知っていただく良い機会になりました。



「日工組通信」